

2025年11月末

組合員数 1,563 名

利用高 4,071 万円

世帯当たり 27,249 円

10/8~11/7 発電量

1,889kwh

# 県南ブロックニュース

## 取手センター開設 10 周年まつり

晴天に恵まれた 10/18。こんなに一同に生産者が取手センターに来て頂ける機会は滅多になく、いろんな話が聞け、試食が出来て大成功の 10 周年まつりでした。



組合員や地域の方などたくさんの人が集まりました！



来られなかった組合員のみなさんに、生産者のお話を伝えたいと思いました。



実行委員のみなさんは、実行委員会立ち上げから何度も会議を重ね、準備も頑張ってくれました。本当にありがとうございました。お疲れ様でした。



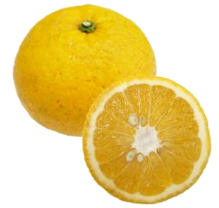
応援に駆けつけてくれた職員・他ブロック理事・ワーカーズのみなさんありがとうございました。



# 甘夏みかん生産者「きばる」オンライン交流会

## 2026年1月9日(金)

### 10:30~11:30 取手センター



熊本県水俣市。1932年から36年間、チッソがほぼ無処理で放出した工場排水はメチル水銀に汚染され、魚介類を食べた人達が水俣病を発症しました。公害の被害を受けた家庭の多くは漁民でした。海で生計を立てることができなくなった時、漁師の皆さんは陸に上がり山を開き甘夏みかんの栽培を始めました。

1977年から始まった甘夏みかん生産は、当時の県栽培基準に従って農薬や化学肥料を散布していました。農薬をかぶってさらに被害を受ける人もいました。農薬を減らせないかという声もありましたが、「農薬を減らすときれいな甘夏みかんが作れない、見た目の悪い甘夏みかんを消費者は買わない」と解決方法が見いだせなかったのです。その頃、生産者は生活クラブ生協に水俣の甘夏みかんを扱ってほしいとお願いにられました。生活クラブ生協の担当者は「あなたたちは公害反対の運動をされてきたのに、なぜ農薬にそんなに無頓着なのでしょう。長い間水俣病の運動をしてこられたというのにそんな実態だなんて…。」

この言葉がきっかけとなり「このままでは、公害被害者の甘夏生産者が農薬被害を広げてしまう。山や海を汚染する加害者となってしまふ。」その矛盾に気付いたことが、年間15回も散布していた農薬を最高5回までに減らし、化学肥料から有機肥料に替え、除草剤も防腐剤も使わず、ワックスがけも行わない甘夏みかんの生産に切り替え、現在に至ります。

だから、生活クラブの甘夏みかんは安心・安全なのです!! 皮を使うピールづくりも安心! 交流会では、甘夏みかんの栽培方法を知ることができ、実際の圃場を見ることもできます。生産者と繋がって色々なお話が聞けます!!

水俣生産者「きばる」の思いを知りましょう!是非ご参加下さい。

## 甘夏みかん取組週です↓ ご注文はお早めに♪

2026年3月以降について、万が一きばる産甘夏みかんを必要量確保できずに不足が生じる場合は、複数産地で代替供給します。また、4月以降は基本的に他産地の甘夏みかんを取り組みます。

甘夏みかん取組週						
取組回	2月3回	2月4回	3月1回	3月2回	3月3回	3月4回
配達日	2/16~	2/23~	3/2~	3/9~	3/16~	3/23~
2個	×	×	○	×	×	×
2kg	○	○	○	○	○	○
5kg	×	○	○	○	○	○
10kg	○	×	×	○	×	○

今年はスタートの2月3回から10kgを注文できます!

# 生活クラブ茨城の食料支援

食糧支援は、組合員の皆様のカンパにより行われています。ご協力ありがとうございました。  
生活クラブ茨城の食糧支援米を支援先にお渡ししました。

県南ブロック 支援先 団体名	エリア	支援米 袋数 1袋 5 kg
ほっとカモン	守谷	4
みんなの食堂 ゆう	取手	5
未来のこどもネットワーク	龍ケ崎	33
学習支援スプラウト	龍ケ崎	5
こ・こ・ろ 子ども食堂	取手	4
ふれあいサロン桜が丘「さくらんぼ」教室	取手	4
子ども食堂まつば	龍ケ崎	5
もりんくる	守谷	4



未来の子どもネットワークさんへの支援数が多いのは他の子ども食堂に比べ規模が大きいからです。

## 「太陽光パネルのリサイクル義務化を求めます」署名のご協力をお願いします！

1/30 まで

太陽光パネルは、今や 100%リサイクル可能になっています。しかし現状、使用しなくなった太陽光パネルはリサイクルのほか、産業廃棄物として処分される場合もあります。というのは、太陽光パネルのリサイクルがまだ義務化されておらず、処理費用もリサイクルの方が高い状況があるためです。

環境省と経産省は審議会で検討を進め、2025 年の通常国会でリサイクル義務化の法政を目指していました。しかし、2025 年 8 月、一旦政府でまとめた方針でのリサイクル義務化を見直すとの発表がありました。

太陽光パネルの大量廃棄は、「起きるかもしれない」ではなく「このままでは起きてしまう」事態なのです。「太陽光パネルのリサイクル義務化」を求める大勢の市民の声を政府に届けましょう。

WEB 署名と紙署名の両方取り組みます。署名用紙は 12/15~19 にすでに配布しています。署名用紙が欲しい方は、取手センター0297-86-6800 まで連絡ください。

### <私たちがこの署名で求めること>

- ▶ 太陽光パネルのリサイクル義務化を一刻も早く進めること
- ▶ 太陽光パネルのリサイクルが一層進むよう、体制を整えること



【署名実施中】  
太陽光パネルの  
リサイクル義務化を  
求めます

2026年1月30日まで

目標  
5,000 筆



WEB 署名はこちらから



## 今後予定のイベント

イベントは急遽日程が変更になることもあります。  
詳細は取手センターへお問い合わせください。  
参加申込みも取手センターへお願いします。

月 日	時 間	イベント名/内容/主催など	会場など
1/9 (金)	10:30~11:30	<b>甘夏みかん生産者 「きばる」オンライン交流会</b>	取手センター
2/6 (金)	10:00~12:00	<b>ゴミはすべて資源 燃やさないごみ処理施設の学習会 ～微生物の力で燃やせるゴミを再資源化～</b>	取手センター
2/28 (土) 3/1 (日)	10:00~16:00 10:00~15:00	<b>展示即売会 &amp; マルシェ</b>	取手センター
◆県南ブロック委員会日程◆ 消費材でランチしていますので 参加される方は事前にご連絡を！		12/24 (水) 消費委員会 10:00～・運営委員会 13:00～	
		1/28 (水) 消費委員会 10:00～・運営委員会 13:00～	

### フォローしてね！



**Rびんは資源ゴミではありません。組合員みんなで使うものです。使い終わったら早めに返却をお願いします。**

12月14日未明、豚肉の生産者「平田牧場」平田第一農場の一部施設において火災が発生しました。大切に育ててきた豚の命を失ってしまった生産者の気持ちを思うといたたまれないですね。「従業員にけが人はおらず、複数農場による生産体制により、豚肉の出荷量・品質・安全性への影響はない」と、平田牧場のHPに記載されています。

また、茨城の組合員からも支援をしたいと連絡があります。私たちができる支援は、豚肉を食べることです。平田牧場のHPにも「私たち生産者、そして豚たちにとって一番の救いは、育てた豚肉をみなさまに『おいしい』と食べていただくこと。それに尽きます。彼らの命を無駄にせず、日々の食事として生かしていただくことが、失われた仲間たちへの最大の手向けになると信じています」と記載されています。食べて応援しましょう。

2025年もわずかとなりました。今年もあっという間でした。

イベントのスタッフなどのご協力ありがとうございました。

では、みなさま、よいお年をお迎えください。

県南ブロック運営委員会一同